

第6回八ッ場ダムモニタリング委員会

議事概要

「第6回八ッ場ダムモニタリング委員会」において、八ッ場ダムに関するモニタリング調査結果、モニタリング総合評価、フォローアップ調査計画案等の審議を行った。

主な審議結果は、以下のとおりである。

- これまでに蓄積したモニタリング調査データの利活用・情報発信を進めていくことが重要である。可能な範囲で、オープンデータ化を含めた検討をしていくことが望ましい。
- 水質関係（pH・D0・栄養塩類等）については、モニタリング調査結果に基づいた評価を記載するにあたっては、現時点で確認された事象と、将来発生が予測される事象を明確に区分すること。発電バイパスの関係では、モニタリング調査結果をとりまとめたページと総合評価の評価内容に不整合が見受けられる。調査結果のまとめの文言を見直すこと。
- ダム建設事業に伴う環境変化により攪乱依存性の種が増加している。今後の環境管理に言及した主張があってもよい。
- 湛水前後の変化だけでなく、着工前の状況も踏まえる等、これまでに起こったことを十分に理解したうえで評価を行い、今後どうすべきかを予測する必要がある。
- 変化の状況や効果の確認結果に基づき、通常のフォローアップ調査に加えて実施すべき事項を丁寧に表現することが重要である。
- 今回のモニタリング期間に得られた知見については、環境基図等で上手くまとめた内容でフォローアップ委員会にしっかりと引き継いでほしい。
- 水国マニュアルに準じた調査だけでは、特に猛禽類の繁殖状況等を確認するうえで、必ずしも十分とは言えない。必要に応じて追加調査等を検討していただきたい。
- 本モニタリング委員会の結果を公表するにあたっては、各委員の指摘事項に基づいた修正を行ったうえで、実施すること。

以上